

## 論点1 現金勘定、小口現金勘定の仕訳

- 1 現金¥100,000を元入れして開業した。
- 2 商品¥1,000,000を仕入れ、代金は現金で支払った。
- 3 売価¥1,150,000の商品を販売し、代金は現金で受け取った。
- 4 本月分の給料¥200,000を現金で支払った。
- 5 商品売買の仲介を行い、手数料¥20,000を現金で受け取った。
- 6 得意先知立商店から掛代金¥130,000を小切手で受け取った。
- 7 仕入先刈谷商店に対する掛代金¥110,000を現金で支払った。
- 8 銀行から運転資金として¥1,000,000を借り入れ、利息¥20,000を差し引かれ、残金を現金で受け取った。
- 9 安城家具センターから商品陳列棚を購入し、代金¥170,000は現金で支払った。
- 10 西尾市にある得意先米津商店から、掛代金の支払いとして幡豆銀行宛小切手¥180,000を郵送してきた。
- 11 10の取引について、米津商店の仕訳を示しなさい。
- 12 決算日において、期限の到来した公社債の利札¥5,000が見つかった。
- 13 現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ、¥2,000現金が不足していた。(現金過不足勘定を使用すること。)
- 14 13の原因を調査した結果、電報料¥1,000の支払いの記入もれが明らかになった。なお、残額については不明であったため、雑損で処理をする。
- 15 経理係の現金¥10,000が盗難にあった。
- 16 月末に金庫の実査をしたところ、封筒に入った現金¥5,000が見つかった。(これは入金処理されていないものであった。)
- 17 収入印紙¥3,000分を現金で購入した。
- 18 郵便切手¥4,000分を現金で購入した。
- 19 決算日において、現金過剰額¥500が見つかった。
- 20 豊田株式会社は、定額資金前渡法を採用している。10月中の小口現金に関する仕訳を示しなさい。
  - (1) 出納係は用度係に小払資金に充てるため、定額資金として¥50,000を小切手で支給した。
  - (2) 月末に、出納係は用度係から小口現金出納帳を要約した下記の経費明細報告を受けた。

雑費	¥ 4,550
事務用消耗品費	5,500
通信費	7,200
タクシー代	10,500
お茶菓子代	5,700

- (3) 用度係は、出納係から上記支払分について小切手により補充を受けた。